

日本労働組合

東京芝三田四國町二

水谷大輔、三井義和

第三回
争いの発端

小説大連続

西郷村の子供たち

第58

日本労働組合

第三回

争いの発端

西郷村の子供たち

西郷村の子供たち

西郷村の子供たち

全店員諸君に機

連日新聞紙に報する如く私共三越従業員は無事なる會社と相手に苦戦を續けて居ります。今回の争議の中心問題は店員の團結権に関する問題であつて私共三越の一部従業員のみの問題ではなく全國の全店員階級等關連する問題であります。此の戦いは店員に團結権ありや否やを社會に問へる重大なる事件であり、從つて其の勝敗に依つて及す處の影響は極めて甚大であります。

店員諸君!!! 諸君等は現在の境遇に満足出来ますか、生活の不安を感じて居ないか?

争議に對する三越(會社側)の言分……店員の團結等認めない。結束して歎願書を提出する等店員の本分でない。専商店は家族的であつて、主人と(重役)と使用人は親子の關係であるが故に店員は團結の必要はない。團結等しなく其眞面目に働くべき居れば將來もあり生活の不安もない」と斯く言つて居る。

店員諸君! 今日の店員は果して三越の言ふ如くであるか? なる程昔の様に使用人も小數で主人と同じ仕事、同じ飯を食つて共に働き商賈もよく覺へる事が出來、其の上十年なり十二年勤めれば『のれん』を分け得る、小さいながらも店を開いて妻も樂に出来る様な時代は三越の言ふ如く家族的で、主人と店員の間も人情が厚かつたし又、安心もして働くから。けれ共、今日はどうか……商店は段々と擴張せられ大量販賣となり大デパートメント(會社組織となり)となるに至り、店員は日給制度になつて主人は(重役、株主)と變り營業手段も商業的になり人情等何處へ行つてしまい、商賈技術も覺へられなくなつて居るではないか!

五百人も千人も使用して居る商店の店員は普通の工場労働者と何等の變りなく、唯仕事は少しキレイなだけである。

商店組織が斯くに進化して(店主が多大の暴利を貯り乍ら)使用者に對する店主の頭は依然として進化なく從業員だけには昔の氣持で懲けと言ふのである。そもそも、今回の問題の起りはココに起因して居るのである。

工場労働者は不完全乍らも工場法と健康保険法との適用を受けて居るが、我々店員には何等の保護法律もないではないか。

店主の人情、水の如く月給は安く、何年勤めても店主にまなれず、解雇手當も退職手當の制定もない、此の状態で何處に店員の將來に光明があるか。何に依つて光明を見出すべきか、何に依つて現在の生活改善をなすべきか? 此の點は全店員の共通の悩みであらう。

店員を保護する唯一の武器は店員自身の團結力のみだ。健闘なる労働組合のみだ。

此の唯一の武器たる團結権を奪われば何に依つて將來への光明を見出し、何に依つて生活改善をなすべきか? 我等が死を賄して戦の決意はこの點にある。

店員諸君奮起せよ

然して我等の正義の戰を援助せられよ

全店員は敢然と起つて

團結権獲得の猛闘争を開始せよ

店員の解放は團結力に依つてのみ